T1

入試で支援ICTをどこまで認めるか

公平とは、全員が同じ方法で受験することか。それとも、同じように問題へアクセスできることか。

共通状況

- 受験者Xは高校3年間、拡大・背景変更・読み上げ・OCR・音声入力・図表の代替説明を利用してきた。
- 大学は外部通信を遮断し、操作履歴を保存できる指定端末を用意できる。
- 受験科目は国語、数学、情報I、小論文である。
- 機能によっては、問題へのアクセスだけでなく、測定しようとする能力へ影響する可能性がある。

主張A

高校まで日常的に使用してきた支援ICTは、外部通信の遮断、事前審査、操作ログの保存を条件として、すべての入試科目で認めるべきである。

主張B

文字拡大や背景変更等は認めるが、読み上げ、OCR、音声入力、図表の代替説明は、測定対象を変える可能性があるため、科目ごとに制限すべきである。

Aが守ろうとしているもの

等価なアクセス／学びの連続性／本来の能力

Bが守ろうとしているもの

測定の妥当性／比較可能性／試験への信頼

必ず検討する問い

- 国語の読み上げはアクセス支援か、読解過程の代替か。
- 数学・情報Iでは、文章や図表を読む技能も評価対象か。
- 音声入力は思考の表出支援か、文章作成技能の代替か。
- 本人の普段の端末と指定端末の操作差をどう扱うか。
- 機能ごとの許可を、科目別に運用できるか。
- 支援ICTで得点が上がることを、どのように解釈するか。

調査・制作条件

公的・一次資料2件以上／相手側を支える資料1件以上／生成AIは論点整理・検索語・構成案に利用可／AI回答を出典にしない／最終スライドは自分で作る／10〜14枚＋出典付録／自作スライドは作成者が説明

あなたの班が担当する主張：B

他班へテーマ・担当主張を明かさないでください。